

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

## 1. 参加者

CL:保木本 大石 松本 大川 西 湊 矢古宇 服部 藤井 木村  
後藤 山部 花本

## 2. 山行スタイル

春山アルパイン

## 3. 目的

春山合宿

## 4. 山域／ルート

鹿島槍ヶ岳 天狗尾根

## 5. 交通手段

自家用車

## 6. 行動記録

< 入山日 2024年5月3日(金) 下山日 5月4日(土)>

5月3日(金)

大谷原 7:00 → 天狗尾根取付 10:30 → テンバ着 1660m 16:00

5月4日(土)

テンバ発 5:00 → 第一クーロワール 9:00 下山開始 → 大谷原 17:00

## 7. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

積雪量が少なくかなり遅くなった。最終的に積雪量が少なすぎるため第一クーロワールにて撤退。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか？

特になし

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

特になし

## 8. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

かなり雪が少なかった。1500mまではほぼ雪なし。藪漕ぎがひどくかなり時間がかかった。渡渉は、4回。かなりいい道ができている状態。

## 9. 感想

保木本

積雪量が少なく、天狗尾根を完登できず残念。が、このメンバーでこの悪い状態で第一クローワールの手前まで行けたのは良かったと思う。また、このルートにきたいと思う。

大石

以前から鹿島槍のどこを登るかの話になった時、天狗尾根はアプローチも渡渉とかややこしいし長いしで避けてきたルートだ。その天狗に今回「春合宿で、みんなで行こうぜ」ってことに。みんなで行けば長いルートも楽しく行けるかなと思い、参加させてもらうことにした。山中 2 泊でゆっくり行ってくれるとの話だったので体力的に不安はあったものの頑張ってみることにした。今年は雪が少ないことの不安要素は大きかったが、『行ってみないとどんな感じかわからないし、案外登りやすいかも…』などと、自分に言い聞かせた。

でも何度かの渡渉後、ようやく枝尾根の取り付けの薄いルンゼ状の所に到着。もちろん雪は無い。『あれを登るんか。悪そう。』傾斜が強いためリーダーがトップでフィックスを張ってくれる。アッセンダーでメンバーは順番に登って行くが、みんなスタンスが決まらずズルズル滑って時間が掛かっている。13人のパーティーだから大変だ。2ピッチのフィックスにて枝尾根にのるが、そこからは藪地獄が始まった。藪に阻まれなかなか進めない。頑張っても頑張ってもなかなか天狗の主稜線にも乗れないし、辛かった。それでも何とか主稜線に乗ったがそこにも雪は出て来なくて、藪漕ぎがずっと続いた。こんな辛い『春山』は初めてだ。

雪のある所まで登らないと水が作れないため、雪を求めて藪を漕ぎ続ける。所々斜面に雪が残っている所が出てきて、ようやくテントが張れる緩傾斜の雪面に到着した時にはホッとした。テン場はなかなかいいところで、テント4張りが十分張れて快適なところだった。雪は 勿論締まっているので、快適なテント生活が送れそうだ。保木本リーダーがビール大2本とワインを担ぎ上げてくれていて、保木本パーティーの私たちはご馳走になってしまった。この上なく美味しいビールだった！

しっかり眠れたので何とか疲れもましになっていた。『頑張らないと！』と気合を入れるが…、2日目も藪漕ぎから始まり、みんなのペースについて行けずに少し遅れながらの登りになってしまう。藪漕ぎばっかりの登りから、ようやく岩が出てきたところの第1クローアールの手前の岩場に着いた時ルートがはっきりせず、少し停滞。保木本リーダーと大川さんが偵察に行ってくれルートは見つかったが、残置された登山装備一式を見つけたとのことで、先に進むことが躊躇されてその場で撤退することになった。

そこまでの辛い藪漕ぎのルートを引き返すことを想像すると泣きたかったけど、頑張るしかなかった。せめてその場から望める景色をしっかりと楽しみながら…そして下山の覚悟をした。今回敗退に終わったけれど、13名の大所帯の中で誰も怪我無く無事降りて来られたのはほんとに良かったと思う。私は一番の弱よわメンバーだったけど、保木本リーダーのリーダーシップと皆さんのパーティーシップに助けられて何とか無事終えることが出来た。ありがとうございました！

松本

渡渉あり、藪漕ぎあり、藪漕ぎ。。。あれ、藪漕ぎしかなかった。。

積雪は標高約 1700mほどのテン場にやっとまとまった雪が出現、ほぼその先も藪漕ぎはつづいた。危険個所も多いため、この人数でなにもなくよかった。全員初めてのルートだったため、保木本リーダー、大川さん本当にお疲れさまでした！

## 大川

今年の冬も、地球温暖化の影響で、雪が少なく、GW の天狗尾根は、ほぼ藪漕ぎの山行となった。標高約 1,100mのアラ沢の取付きから標高約 2,000m平坦な尾根に出るとろろまで雪はなく、ひたすら急斜面の厳しい藪漕ぎとなった。特に標高 1,900m辺りに生えているシャクナゲの藪漕ぎは枝がねちっこく体にまとわりつき、厄介だった。藪漕ぎはストック、ピッケルを持たずに、泳ぐようにかき分けて進んで行く方法が、対処方法だと後から気が付いた。また、登りの藪漕ぎは枝が顔に向かってくるので厳しいが、下りは逆になるので楽になることが分かった。テン場は雪が出てきた平坦な尾根上に快適に張れてラッキーだった。2 日目、第一クーロワールは全くの草付き状態となっており、ここで撤退した。今回は途中までしか行けなかったが、藪漕ぎ・渡渉・草付きの登攀等色々技術的に勉強になることが多かった。収穫の多い合宿だった。

## 西

今年の春山合宿は鹿島槍天狗尾根。泥臭いバリエーションルートだ。3.4 回の渡渉が核心だと思っていたが、意外に水量が少なくネオプレーンの靴下の効果も絶大で、全員大きなトラブルなく進んだ。次に出現したのは支点がとれない急登だった。なんとかかほっきーがリードで突破してくれたが、2 ピッチを 13 人全員が登り切るのはかなり時間がかかった。そして藪漕ぎ。これもかなり疲れた。トップを歩いたが続く藪漕ぎに心が折れそうになった。「なぜ、こんな体の小さい私がトップやねん！！」と思った。それでも 4 つのテントが十分張れるテント場に到着しほっとした。雪も十分あった。ごっとなのスノーソーで雪を切断し整地した。(ごっとな、ありがとう！) その夜は、大川さんはお酒を楽しそうに飲んでいたが、疲れもあり結構すぐに寝た。翌日は、5 時スタート。いいお天気だ。また、藪漕ぎが始まった。そして、第 1 クーロワールに行くところで道迷い。ルートは見つかったが、結局、先に進むのも大変だということで撤退。やっぱり悔しい！下山は早かった。ロープをはった 2 ピッチは同じように 2 回の懸垂下降で、同じように渡渉もあったが、もうみんな靴のままばしゃばしゃと渡渉した。そして、まさかの宿ゲット！助かった。このまま帰るなんて事になったら泣きそうだった。スーパーで買い出しをし、宿でゆっくりお風呂に入り、みんなでご飯を食べ、布団で寝ることができた。帰りは新緑を楽しみながら、ほとんど渋滞に巻き込まれることもなく帰れた。13 人の大所帯でのバリエーション。いろんなことがあったけど、事故なく全員で行動できたことは素晴らしいことだと思う。ご一緒くださったみなさま、ありがとう！楽しかったです。

## 湊

当初より雪が少ない情報が満載だった今回の鹿島槍。本当に行くのか？と思いながら準備をしていたら、リーダーから GO サイン。天気は 3 日もよい予報。いつものことながら、行ってみってから作戦のようだ。登山口では全く雪山の様子がない。眺める山頂は白よりも黒のほうが多い。最初の難関は、渡渉。靴を脱いで渡ってみるが雪解けの水は恐ろしく冷たい。足がちぎれそうになった。甘く見ていた自分に反省をした。次の渡渉からは、ネオプレーンの靴下をはいた。天国だった。初めからなぜ履かなかったのだろうと反省した。ルート上には雪がない。本来はやぶの上に雪が乗っているはずが、雪がないので必然的にやぶの中に行くことになる。正直、いつまで続くかわからないやぶ漕ぎに、メンタルがやられた。まだまだだと反省した。初めてまともに雪が出てきた場所がテンバ適地ということになり、幕営。

正直ほっとした。

翌日も、やぶ漕ぎを繰り返しながら高度を上げるが、思うように進まずタイムアウト。残念ながら撤退。またやぶ漕ぎで下山にうんざりしたが、それ以外の選択肢はない。下山で、先頭を歩いたが尾根筋をトレースできない。読図が全然できていない。これでは、バリエーションは難しいなと感じた。

天候には恵まれたが、雪には恵まれなかった春合宿。読図やルートファインディング、メンタルトレなど課題が多く見つかった春合宿だった。

リーダーの機転で、GW にもかかわらず、奇跡的に宿が取れ、楽しい宴会ができました。リーダー、ご一緒いただいた皆さんありがとうございました。地球温暖化で年々降雪量が減っているらしい。春合宿が、沢登りなんていうことにならないことを祈ります。

## 矢古宇

鹿島槍天狗尾根は渡渉もあるロングルート。総勢 13 名。今年も雪は少なめで、ほんとは行く、行けるんだろうか？と思いつつ---直前の保木本車故障もあり、波乱の幕開け！？ 雪解け水の渡渉ではネオプレン靴下の、落ち葉でグズグズの高捲き？ではロープ確保の、藪こきではアイゼンの、ありがたみを改めて実感した。それにしても、雪のなさでのエグイ藪こき、春山？と思うほどの暑さ---今までに経験した中でも、体力含め、かなり厳しかったが、絶景を拝み、皆で歩く山は楽しく、だから歩き通せたのだと思う。途中撤退は残念ではあったが、次回(あるのか?)は是非、鹿島槍の山頂を踏めたらと願う。下山が一日早まったため、急きよ探して何とか確保できた宿での大反省会、あのダラダラ感は春合宿の醍醐味のひとつ、か。最後に、怪我もなく無事に下山できたのは、保木本 L はじめ、経験者の先輩方、体力ある若手？のおかげでもあり、皆の団結力の賜物。ありがとうございました。さて、来年の春山合宿は天狗尾根リベンジ？はたまた何処へ？？体力が続けば参加したいと思うので、よろしく願います。

## 服部

GW の春山合宿に仕事の都合がついて運良く参加出来た春山合宿。山行計画を聞くとなんだか大変そう。そして、当日、渡渉時の水の冷たさや藪の手強さは想像以上だった。渡渉は、ネオプレンの靴下を持参していたが素足で行けると判断し冷たいのを我慢して渡渉した。しかし周囲のネオプレンを使用した方々は足が冷たくなく使用する価値アリとの事だったので次回は使用したい。あと、登山靴をザックにぶら下げた際に左右のバランスが悪く、ザックを担ぐ際によろけてしまったので、ザック重量を減らす努力をもっとせなと再確認した。今回は一泊二日の第一クーロワールまでとなったが藪漕ぎで体力消耗が激しくハードない山行だった。2 日目は GW の急な予約でも宿泊出来てとてもありがたかった。それと、道中で白馬三山の山並みを一望出来て次はあの山に登りたいと楽しみも増えた。ご一緒して頂いた皆様、本当にありがとうございました。

## 藤井

ほぼ初めての残雪バリエーションルート、徒渉、藪漕ぎ、雪稜歩き、トラバース、懸垂下降とバリエーションに富んだコースだった。途中撤退は残念だったが、13 人の大所帯でケガもなく無事に下山できたのは良かった。来年 3 月のリベンジに向け、しっかりとトレーニングをしようと思う。ご一緒いただいた皆さん、ありがとうございました！

## 木村

とにかくヤブ漕ぎが、しんどかった。でも実際に藪をこいでる時間自体は登りで2時間程度、下りで1時間半ぐらい。沢登りと違って、雪山のつもりで言っているからダメージが大きい。西さんの後ろを歩いていたら、藪が出たら前歩けと言われた。しんどいながらも楽しく(?)歩いていると、第1クローワールの手前の絶壁で道を見失った。これがとても悔しい。ぜひもう一度チャレンジしたい。最後の渡渉は全員ざぶざぶ川の中を歩いていた。もちろん冬靴で。なんだかんだで楽しい山行でした。

## 後藤

憧れの残雪の鹿島槍へ…

の、はずがまるで夏山を思わせるような山容に苦戦を強いられる山行でした。それでもルーファイ、藪漕ぎ、渡渉、腐った雪のトラバースなどどれもいい経験になり強くなれたと思います。来年こそは鹿島の穂先へ！

## 山部

やっと冬山教室も卒業でき、初の春山合宿参加。

参加表明してから「春山」の響きから想像していたものとは異なり、雪解け水の川を渡渉して、雪崩の巣窟に飛び込むような割とえげつない山行だと分かり、だいぶ緊張感がありましたが、蓋を開けてみると、前半はひたすら藪漕ぎのゆるふわ(『ゆるす限りフルパワー』の意)登山になりました(笑)

残念ながら第一クローワールまでで下山の判断となった時は「何とか今日中に下山して宴会！」の一心で下りました(笑)

初の北アルプスの雪山でしたが、美しい周囲の山嶺を見ながら楽しく行動できました。時間と共に変わる雪質とかも勉強になりました。

一緒に行って頂いた皆さん、ありがとうございました。

## 花本

雪山に登りたくて冬山合宿に続いて参加しました。天狗尾根取付きまでは大谷原から大川沢沿いに進み途中数回渡渉が必要だったが水量はそれほど多くなく沢登り感覚で楽しむことができました。ところがアラ沢に入ればらくしてからの天狗尾根取付きで状況が激変する。

ルンゼ状のルートに保木本さんがロープを張ってくれて、アッセンダーを使い登るが、ホールド乏しくさらに積もった枯葉が追い打ちをかけてとにかく滑る。

ピッケル、木や草など使えるものは総動員して何とか登ることができた。登攀中は登るのに必至で気にならなかったが、尾根筋に出たからはハードな藪漕ぎに悩まされた。笹や低木の枝をかき分けて進むがザックに引っかかったり、はねて顔を叩かれたりと試練が続いた。

ふと、荒れた農地や山林の藪を歩いている感覚を思い出し、例年の農作業をさぼって春山合宿というのが甘かったと反省する。

初日かなり頑張ったが天狗の鼻までは届かず、雪が十分残っていた場所でテン泊となった。予定の高度が稼げなかったのは残念だったが、雪がある＝水が作れるところでテントが張れるだけでハッピー感全開。

2日目も藪漕ぎを頑張り前進したが、天狗の鼻手前高度約2000mで撤退となった。下山も藪漕ぎだが下りなのでそれなりに早い。取付きの急傾斜部分は2回の懸垂で無事アラ沢に戻ることができた。大変でしたが合宿として経験を積むことができたのは良かったし、皆さんと一緒に登ることができて幸せでした。やっぱり合宿は楽しいです。チャンスがあればまた参加したいと思います。皆様ありがとうございました。



往路渡渉



取付き



枯葉で滑る急斜面にロープを張るリーダー



テント場で一先ず乾杯



いざ出発





第 1 クーロワール断念後



復路渡渉

報告者氏名 保木本 真人  
2024年 5月 12日